

みつぎ便り

131号
8月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成29年8月1日 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/

夏休み特集 見次公園にいるセミたち

「ミンミン、ミンミン」「ジー、ジリジリジリ」。夏の暑い陽射しの中で、これらセミの鳴き声を聞くと一層暑さがつのる気がするから不思議です。でも現実には、仲間の数や気候状況による影響はありますが、セミの鳴く時間は種類によって異なっていて、真夏の日中に鳴くセミは少数派です。

成虫のオスの腹腔内には音を出したり、その音を大きくしたりする仕組みがあり、セミの鳴き声はうるさいくらいの大声です。また、セミは口が針のようにとがっていて、樹液などの植物の汁や昆虫の体液を吸いますので、カメムシの仲間に分類されているのも面白いですね。



セミの種類は世界中に約三千種と多く、食用や薬用として利用する国や地域もあり、日本にはそのうち約三十種います。しかし、西日本と東日本、山地と低地、都市部と山地など、地域によって生息状況は異なります。見次公園には何種類のセミがいると思いますか？

「ミンミン、ミンミン」がミンミンゼミ、「ジー、ジリジリジリ」(またはジージー)がアブラゼミ、「カナ、カナ、カナ」がヒグラシ、「ツクツクポーシ、ツクツクポーシ」ウイヨース、ウイヨース、「ジー」がツクツクボウシ、「チー、ジー、チツチツチツ」がニイニ

イゼミ。それに近年では「シャー、シャー、シャー」とクマゼミも鳴いています。

以上、全部で六種類はいると思われませんが、その他に鳴いているセミを見つけたらぜひ教えてください。また、セミは幼虫での地下生活が三〜十七年と長く、羽化した後の抜け殻は、木の幹や草花の芯などについています。その抜け殻を比べて見ると、大きさまや色、出っ張り具合など、それぞれに違いがあるのが分かります。図鑑やインターネットも参考に、調べてみるのも面白いですよ。
(利)

